

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590300028		
法人名	医療法人社団 康晏堂 石内医院		
事業所名	グループホーム「東海の里」	ユニット名	笑笑館
所在地	宮崎県延岡市水尻町225番地1		
自己評価作成日	令和3年9月4日	評価結果市町村受理日	令和3年11月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action_kouhyou_pref_search_list_list=true
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和3年9月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・事業所理念「今を喜ぶ」を具現化すべく、入居者様が安心して生活していただき、できる限りお1人お1人、それぞれのペースで過ごすことができるよう、声かけや対応を工夫している。
- ・その方に対し、良い対応支援があった時にはスタッフに周知し、統一したケアが行えるように努めている。
- ・利用者様の要望に対して、スピーチロックをしない。今すぐにはできないことに対しても説明を行い理解を得るように心がけている。
- ・身体拘束を行わない努力と工夫をしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域の方と利用者が相互に交流する機会を増やし地域との繋がりを大切にしているホームである。運営推進会議には母体法人の医師や薬剤師をはじめ、地域有識者の参加もあり専門的な意見も参考に日々の支援に取り組んでいる。母体法人の医師は往診日以外にも立ち寄りなど利用者の安心安全に配慮し、最後までその人らしく生活できるよう職員と共に日々の支援に取り組んでいる。新型コロナウイルス感染症のため思うように動きが取れない日々の中で広い園庭を活用し利用者の散歩など寄り添う支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各ユニットに基本理念の書かれた用紙が掲げられている。また毎月の定例会議の際は皆で理念を復唱し常に理念に沿った行動が出来るよう心掛けている。		「今を喜ぶ」を基本理念とし会議での唱和を行い、意識付けと共に日々の支援に生かされるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	現在はコロナ禍の為地域との交流が出来ない状態である。以前は夏休みの時期は、敷地を使い小学生と一緒にラジオ体操を行う、地区の方の訪問を受けるなどの交流をもっていた。		ホームとして自治会にも加入しており、地域の方の訪問や地域行事の参加など交流が図られている。今はコロナ禍で難しい状況である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や公民館の行事に参加し、施設の現状や入居者の方の介護の方法等を情報発信していた。現在はコロナ禍の為、交流が出来ない。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	管理者、職員が会議に出席し会議内容を記録に残し、職員に伝達している。		会議には地域の方や医師、知見者、薬剤師、家族代表など様々な方の参加を得ている。ホームの現況報告と共に専門的な意見や情報交換がなされサービスの向上へ生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者が代表して対応している。運営推進会議などでも連絡を取り合っている。		市の担当者は運営推進会議にも参加している。管理者は直接電話やメールなどでも連携を図り協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修は毎年職員が受講し伝達講習を行なうことで理解している。玄関の施錠はしていないが、門扉に関しては、入居者の状況やスタッフ数で閉まっていることが多い。		身体拘束の研修に参加した職員を中心に、ホームでの勉強会を実施している。スピーチロックや身体拘束の弊害を理解し日々の支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修に、毎年職員が参加し伝達講習を行ない、職員同士が情報を共有し虐待が見過ごされないよう努力している。			

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は権利擁護に関する研修報告で学ぶ機会がある。この制度を使う入居者様はいらっしゃるが、必要と思われる方、ご家族には情報の提供行っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関する事は入居時に管理者が行っている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や主任が中心となりご家族と密に連絡を取っている。面会が可能な時は、対応した職員が意見を伺うように努めている。	家族には意見や要望が出しやすい雰囲気づくりに努めている。リモートでの面会も伝えており運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の定例会議や個人面談等で、職員の意見を聴く機会を設けている。また直接管理者に要望を申し出ることもある。	定例会議や勉強会の中でコミュニケーションを図り意見や提案が出しやすい雰囲気づくりに努めている。職員からの要望で車椅子のまま乗れる体重計も導入されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	慢性的に職員の不足が続いており、休みが取りにくい面がある。それ以外の労働条件は守られていると思う。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勤務年数や経験の応じた教育制度が取れていない。人員の不足で教育に時間がさけない状態である。個人の資質に任されている状況である。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社会福祉協議会主催の研修に年1回、職員全員が参加し、他の事業所の方と交流をもっている。現在はウェブ会議の為、交流が限られている。			

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しく入所された方には、環境や人に慣れるまで、時間を割いて関係作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に見学に来ていただき、不安なく入居していただいている。またご家族の意見を十分に伺い、関係作りに努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なサービスを見極め提供している。グループホームでは他の公的サービス利用は限られているが、私的なサービスの利用は行っている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様が出来る事を探して、一緒に行って頂いています。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	請求書を発送する際に、施設や入居者様の近況をお知らせし、ご家族との絆が切れないよう心掛けている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所期間が長くなるにつれ、ご家族、馴染みの人との関係が薄くなってしまっている。馴染みの場所には行く機会が少なくなっている。	利用者の馴染みの事柄を職員も共有し、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう工夫し努力している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じユニット、同じテーブルに座る方と会話が出来るよう配慮している。難聴で会話が出来ない、気分が沈んでいるなどで、トラブルになりそうな時は職員が間に入って仲裁している。			

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方、お亡くなりになられた方のご家族との交流は数件しかないが、相談に来られた時には対応するように努めている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中から本人の希望や要望を聞き出し、意向に添えるように努力している。職員中心にならないよう努力している。		入居の際家族から情報を聞き、家具や写真を持ってきて自宅に近い環境を心がけている。また買い物など本人の希望を叶えるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やこれまでの生活環境の情報は、ご家族、関係した他の機関の職員などから聞き取り、職員間で情報を共有している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌や申し送りノートを活用して、入居者それぞれの状況把握は行えている。状況により日中も休んでいただくなど、個別の対応を行なっている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主任を中心に入居者様の意見、ご家族の意見、職員の情報などを集約してケアプランを作成している。日々の介護の中で気付いた点を集めてプランの見直し等を行っている。		ユニットリーダーが家族と話し合い、介護計画を作成している。ADLが変化した時はスタッフ間で話し合い、即対応して改善に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録、情報ノート、業務日誌などから情報を共有し、実践に活かしている。計画の見直しも必要時おこなっている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用できる私的なサービスを出来る限り使っている。金銭の負担が生じるので、入居者様全員が利用できるとは限らないです。			

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前はホーム外での活動で地域との交流があたが、今はコロナ禍の為、地域や人の関わりがなく本人の力が発揮できている場面は少ない。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医は石内医院が担当。往診、処方、検査を行っている。その他希望される場合や緊急時には主治医からの紹介にて、随時受診が出来ている。	母体である医療機関から往診があり、体調変化時もすぐに対応できる体制が取れている。医師との信頼関係もあり、利用者や家族が安心できるような支援に取り組んでいる。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	石内医院と医療連携を行っており、入居者様の病状に関しては相談、対応が迅速に行っている。施設内の看護職員にも随時相談ができる環境にある。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の対応は主に管理者が対応している。入院時の情報提供は行っている。退院時は事前に管理者より情報提供がある。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	まず、主治医から病状の説明がご家族になされ、その情報をうけ、管理者、主任を中心に施設で出来る事、ご家族が希望される事を聞き取り、方針を決めている。	重度化した場合、同法人の医師から家族に状態説明があり、毎年看取りが行われている。高齢化に伴い終末も安心できるような支援に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ホームにAEDを備えている。事故発生時の対応やAEDの使い方などは不定期ではあるが勉強会を開いている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練、消火訓練を行っている。5月は夜間想定、10月は日中想定している。	コロナ禍以前は民生委員や地域の方の参加があり、定期的に防災訓練を行っていた。今は津波を想定した訓練にも取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、他者を傷つけない対応を心がけている。特に排泄時などプライドが不用意に損なわれないように配慮している。	慣れで言葉使いが悪くならないように定例会で話し合っている。またトイレの際には外で待つなどプライバシー確保にも取り組んでいる。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お一人お一人が、意見を言えるよう十分な声掛けを行い、意思を尊重している。自分で意思表示が出来ない方には配慮している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者が全体的に重度化しており、自発的な行動を起こすことが困難な状況にある。そのような中でも個々の能力に合わせたレクリエーションや作業を行えるように心がけている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で選ぶことが出来る方には、ご自身で選んでもらっている。出来ない方には、職員が代わって選んで差し上げている。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな食べ物、嫌いな食べ物は把握し、無理なく食べる事が出来るよう配慮している。一緒に調理することは難しいが、片付けやおしぼりの準備などは行ってもらっている。	利用者の能力に合わせて片付けを一緒にしている。また食べられないものは代わりを用意するなど工夫し、行事食のときは利用者に希望を聞いて食事が楽しめるよう心がけている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立はないが、準備された食材で、バランスの良い調理を心掛けている。摂取量を記載し、食事がとれているか常に確認している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各食後口腔ケアを行っている。また訪問歯科を利用している入居者様もいらっしゃるが、全員の利用は出来ていない。			

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、出来る限りトイレでの排泄を心掛けている。ご自身でトイレの利用が出来ない方はおむつによる排泄の管理を行っている。	布パンツの方も数人いてオムツは必要時のみとしている。利用者の排泄パターンを把握して声かけや誘導を行いトイレでの排泄を支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の記録をつけ、便秘の方には食品の工夫や、緩下剤を利用して便秘にならないよう心掛けている。服薬する薬によって便秘になる事も理解している。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴時間や回数は施設で決めてしまっているが、お一人で浴槽を利用できる方には、ゆっくりお湯につかる時間を取っている。寝たきりの方はシャワー浴を行っている。	職員は利用者一人ひとりに合わせ、声かけに工夫し楽しい入浴となるように努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望に沿って、休息の時間をとっている。出来ない方もいらっしゃるのは事実です。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局から出される、お薬の写真と説明を確認、薬の内容は理解している。薬の作用も理解している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、入居者それぞれに合った活動を行なってもらっている。洗濯物を干してもらったり、たんでももらったり、またゲームや運動、散歩を行うなど様々な活動を提供している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	屋外の散歩やドライブは行っていたが、コロナ禍の現在、外に出る事が出来なくなっている。敷地内の散歩は継続している。ご家族との外出も今は出来ない。	家族の協力も得て外出支援や、ドライブの計画を立て利用者の希望に沿うよう努めている。現在は新型コロナ感染予防の為行えていないが、日常的に園庭での散歩は支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	笑笑館	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人のお金は預かっていないが、施設の小口から立て替えてお金を使えるようにしている。移動販売時には、好みのお菓子を選んで購入してもらっている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればホームの電話で掛けることが可能である。家族や友人からの電話も取り次いでいる。手紙のやり取りは行われていないが、届いた葉書等は居室に飾るなどしている。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて飾りを変えイベント時にはポスター等で案内し過ごしやすい環境づくりを心掛けている	共用空間は季節を感じる飾り付けがさりげなくされている。室温調整もされソファーなども置かれ利用者が居心地よく過ごせるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者様が隣り合うよう、多目的ホールではソファーにゆっくり座れるよう、配慮している。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室入り口に名前の表示、使い慣れた家具や、写真を持参して頂いている。施設の備品のみ使用している方もいらっしゃる。	居室には利用者が使い慣れた家具やテレビなどが置かれている。家族の写真なども飾られ、家族来訪時に使えるように椅子なども置かれ居心地よく過ごせる工夫がなされている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの表示、手摺の設置、お一人でも場所の理解が出来るよう、安全に歩くことが出来るよう配慮している。			